



窓やベランダからの転落に気を付けて

気持ちの良い気候になってきて、窓を開けて過ごすことが多くなりました。網戸は小さな子どもでも簡単に開けられるので、知らない間にベランダに出てしまって、転落事故へつなげることがあります。事故が起きないように、家の中やベランダを点検してみましょう。

どんな事故が起きているの？

転落事故は、一人で歩き始める1～2歳から増え始め、3～4歳で最も多くなります。また、子どもだけで遊んでいる時に多く発生しています。



【事例1】 子どもだけで部屋にいて網戸に寄りかかる

子どもが窓枠に腰かけて網戸に寄りかかっていたら、網戸が外れて転落。窓は床から 60cm の高さで、窓枠まで10cm 程度の子どもが座れる奥行きがあった。（7歳）

【事例2】 ベランダの室外機に登り、手すりを越えて転落

マンション2階の室内で遊んでいた子どもが、親が気づかぬうちにベランダに出て転落。室外機のところにスリッパがあり、室外機によじ登った可能性あり。（2歳）



事故が起きにくい環境づくり

①ベランダには物を置かない

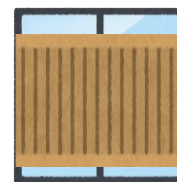


柵から離して置いていても、子どもが動かして踏み台にすることも！

②室外機は 手すりから 60cm以上離す

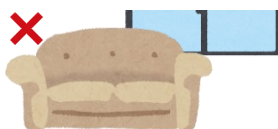


③補助錠や柵をつける



窓や階段の手前などに後付けできる柵・ベビーフェンスなども売られているので、活用するのもおススメ！

④窓の近くに物を置かない



⑤窓、網戸、ベランダの手すり等に劣化がないか定期的に点検する

子どもだけ残して外出しない、ベランダでは子どもだけで遊ばせない、窓枠や出窓に座って遊んだり、窓や網戸に寄りかかったりさせないことも大切です。
お子さんが小さくて、まだ手が届かないから大丈夫と思わずに、対策をしておくようにしましょう。

☆ ご予約・お問い合わせ ☆

いなみ虹保育園・病後児保育室「レインボー」
住所：兵庫県加古郡稲美町国安1256番地
TEL：079-490-2064（専用電話）
FAX：079-490-6682

* 詳しくは「いなみ虹保育園HP」「稲美町HP」をご覧ください。



編集：城尾

参照：政府広報オンライン